



車両に関する属人業務「ゼロ」を目指す
リアルタイム情報活用術



INDEX

1 Cariotとは p.03

2 Cariot活用事例 p.04

Cariotで実現するリアルタイム情報活用5つ

1. 配車や連絡の属人業務をなくす
2. 当日対応の柔軟性実現
3. 進捗に合わせたリアルタイムな計画の見直し
4. 誰にでもスムーズに位置情報の共有
5. 問い合わせ業務効率化

3 Cariotの強み p.09

1. 3秒に1度取得したデータをSalesforceで分析
2. 柔軟なカスタム設定
3. ワークフローで円滑な現場運用 紙の運用も減らし、アナログ作業からの脱却

4 導入事例 p.11

1. 株式会社由加屋様
2. 嘉屋興業株式会社様

Cariotとは

「クルマの現場が見えないことによる手間・ストレス」「アナログで非効率な運用による無駄・リスク」を感じていませんか？

Cariotはそのような現場の課題を解決する、クルマと企業をつなぐドライバーの働き方改革クラウドです。

Cariotの仕組み



あなたのクルマ



Cariot



車載デバイス
(SIMカード内蔵)

or



Cariot
モバイルアプリ

AWS
Cariotサーバー



Cariot
アプリケーション

Cariotの成果

リアルタイム情報活用で
問い合わせ業務削減



急な依頼への対応



到着時間の確認対応



災害時の確認対応

過去の履歴情報活用で
管理の業務効率化



車両・ドライバー台帳の管理



安全運転の管理

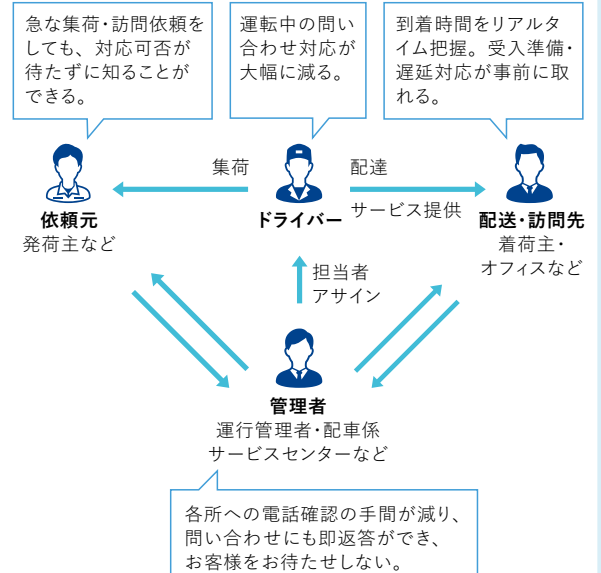


運転日報の管理



ドライバーの労務管理

Cariotの活用例



Cariot活用事例

～ Cariotで実現する5つのリアルタイム情報活用例～

Cariotで実現するリアルタイム情報活用例を5つご紹介します。

業務効率化・コストメリット・使いやすさなど、サービスを選定する際の基準はいくつ思いつくでしょうか。

Cariotでは、リアルタイム情報活用におけるサービスの選定ポイントを、

お客様の実際の業務特性に合わせ、以下の5つに絞りました。

優れた製品でも、現場にフィットしないサービスでは現場の違和感は拭えません。

下記の図は、どれもお客さまの現場で支持されている活用事例ですが、思い当たる課題はあるでしょうか。

Cariot	活用事例	他社
◎	配車や連絡の属人業務をなくす	○
◎	リアルタイムアサインの柔軟性実現	△
○	進捗に合わせたリアルタイムな計画の見直し	○
◎	誰にでもスムーズに位置情報の共有	△
◎	問い合わせ業務効率化	○

※当社調べ

1. 配車や連絡の属人業務をなくす

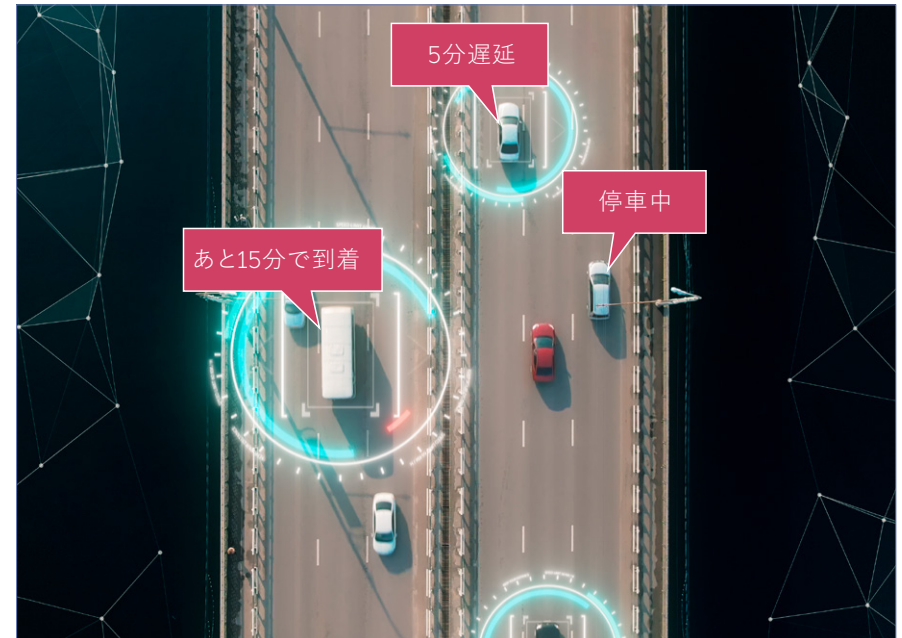
クルマに関する業務では、配車係や連絡担当者の業務が属人化しがちです。カレンダーやメール、電話など複数のツールと向き合いながら、ドライバーや顧客と連絡をとるマルチタスクが自ずと職人技になり、マニュアル化が困難になります。

Cariotは、一画面に必要な情報になるべく集約されるよう設計されており、ドライバーの位置情報だけでなく、運転中かどうか?などの現在のステータスまでわかります。これにより「配車や連絡の属人業務をなくし、誰でもできるように」全体の業務負荷を軽減しながら生産性を向上させることができます。



2. 当日対応の柔軟性実現

急な配達や駆け付け依頼の際に、誰がどこにいて・誰の手が空いているか?の確認に、予め立てていた配送計画やおおよその行き先を元に、管理者の勤や手探りでドライバーと連絡を取り合っていないませんか? また、休憩なしでの連続走行や、長時間運転など危険運転の誘発につながるタスクの割り振りは発生していないでしょうか? Cariotでは、視覚的に地図を見て「すぐに現場に向かえる人は誰なのか?」や「目的地の最寄りにいる人は誰なのか?」など、状況に合わせた合理的な判断ができるようになります。加えて、連続運転や休憩中などの実態も画面上でわかるため、業務実態を把握しながら柔軟に担当の割り当てをすることが可能です。



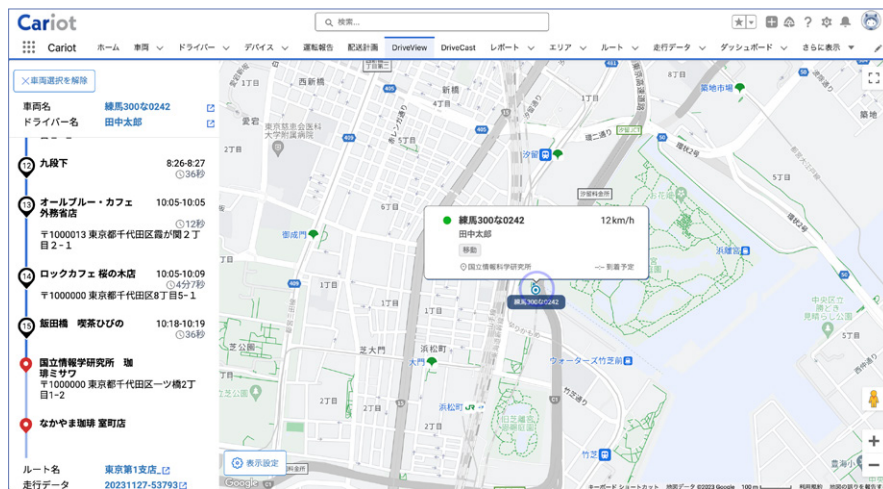
※画像は実際の表示例ではありません。

3. 進捗に合わせたリアルタイムな計画の見直し

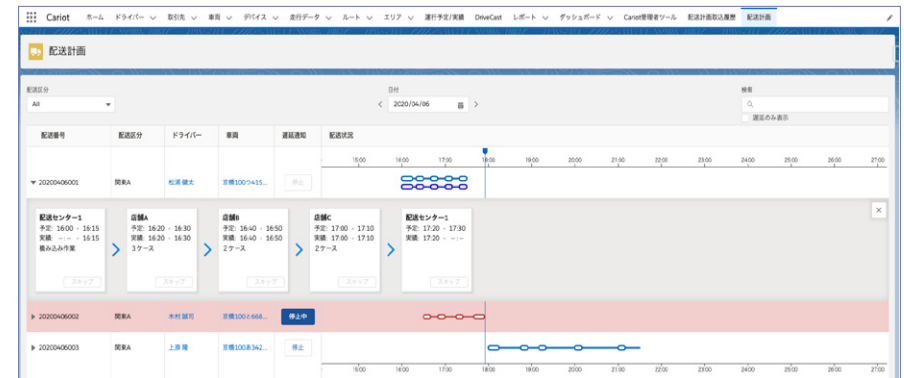
企業から個人まで、さまざまなシーンで重要な役割を果たす集配業務や送迎業務。しかし、定期的な配達や訪問を計画通りに行うことが効率的とは限りません。届け先や送り先が順不同で時間の指定がなければ、進捗に合わせてさらに効率を高めることが可能です。

Cariotでは集配や送迎が、今どの程度進捗しているか?をリアルタイムに見直すことができます。

ドライバーが長時間労働になってしまう原因に「計画と実態が乖離しているのに、計画通りに行動しようとして業務の非効率が発生する」や「付帯業務の多さ」がありますが、この問題は、リアルタイムに実態を把握し、長時間労働の原因となるボトルネックを発見・解消することで、健全な労務環境の整備も実現できます。



リアルタイムに全車両の状況がわかる「DriveView」



配達・訪問の予実管理ができる「配達計画」



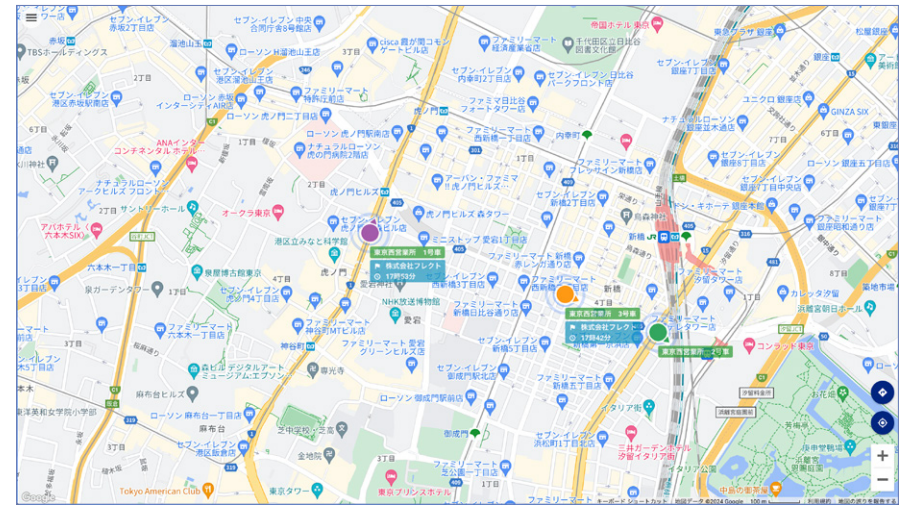
遅延発生の可能性を検知し、関係者に自動でメール送信する「遅延アラート」

4. 誰にでもスムーズに位置情報の共有

Cariotが備えている「DriveCast」機能を使えば、配送先などのCariotをご契約されていない社外関係者にも、車両の位置情報や目的地への到着予定時間を簡単に共有できます。

リアルタイムに車両の状況を把握できる地図に、車両別・ドライバー別などの条件を設定し、そのURLをメールやSNSなどで送付しておくことで、車両の「今」の状況を知りたい方や、到着を待っている方にも車両の運行状況が共有できるようになり、待つ側のストレス解消と業務の生産性向上を実現します。

また、共有するURLごとに、パスワード設定、公開時間帯の制限、配信開始日時・終了日時の設定も可能です。



誰でも車両の位置情報がわかる「DriveCast」

【DriveCast共有の流れ】

1

管理画面で共有する車両を選択
URLを発行 ※パスワードも設定可能



2

メールやSNSでURLを共有



3

共有されたURLに
ログインなしでアクセス可能



実際に動いている「DriveCast」の
画面イメージをご覧いただけます。



5-1. 問い合わせ業務効率化(問い合わせそのものを減らす)

運転中の電話対応に頭を悩ませている方は多くいらっしゃいます。電話でのやり取りは、不在着信や折り返し連絡に時間がかかるだけでなく、遅延発生の原因となるなど負の連鎖が起こりがちです。

- 到着予定時間を過ぎてから遅延を把握。対応が後手に
- ドライバーへの電話確認が多く、運転の邪魔をしてしまう

管理者と顧客が、互いに車両の位置情報を共有することができれば「今どこ?」、「いつ着く?」の問い合わせを大幅に削減することができます。

Cariotをご利用いただくことで、遅延や渋滞トラブルの事前検知、ドライバーの運転への集中、確認や折返しの工数削減という好循環への転換が実現します。

5-2. 問い合わせ業務効率化(問い合わせ発生以降の対応効率化)

社内だけにとどまらず、外部からの問い合わせ効率化も実現します。問い合わせが発生したとき、誰でもすぐに対応できる環境を整備しておけば、出先からでも事務所にいても同じ画面で状況の確認を取ることができます。

Cariotの強み

3つの強みをご紹介します。

1. 3秒に1度取得したデータをSalesforceで分析

Cariotは3秒に1度という業界No.1クラスのGPSの位置情報の取得間隔を実現し、車両に関する正確なデータを蓄積します。

また、Salesforceを基盤に提供するクラウドサービスなので、SalesforceCRMの標準機能を利用でき、顧客データを基点に運転データと業務活動データをまとめて管理できます。

蓄積した顧客単位のサービス提供実績をかんたん集計、出力が可能で、出力したデータは、請求や業務分析にも活用いただけます。

輸配送車両以外でも幅広く利用可能



フィールドサービス
(保守・点検)



営業車両

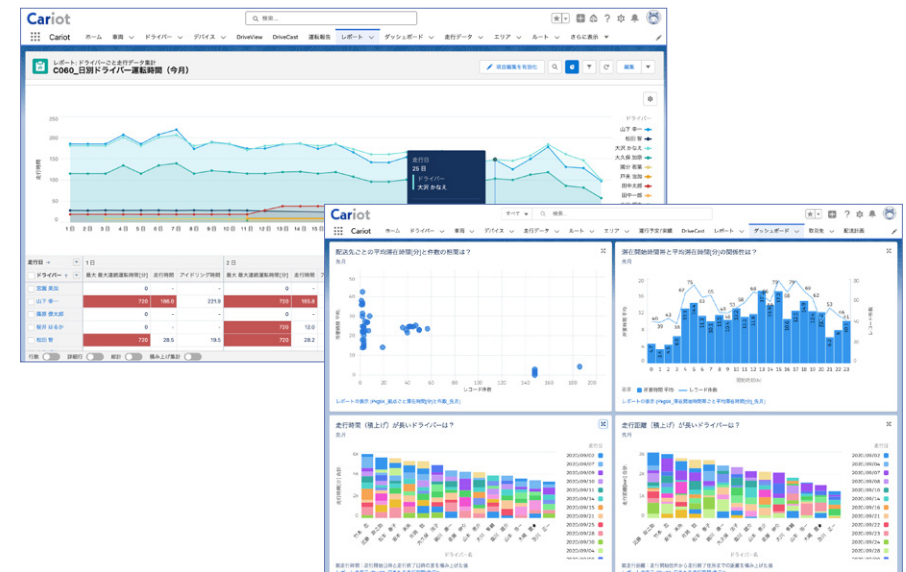


建設車両

2. 柔軟なカスタム設定

取りたい項目や分析したいデータを、クリックベースで簡単にカスタム。CSVやエクセルでの入出力も可能です。

蓄積された正確なデータを元に、どこにどんな問題(業務の無駄)があるのか、何を改善すればもっと効率化ができるのか、そしてそれらはどれくらいの影響(コスト、時間)があるのかなど、さまざまなレポートを出すことができます。



「レポート・ダッシュボード」の例

3. ワークフローで円滑な現場運用 紙の運用も減らし、アナログ作業からの脱却

目的地への到着お知らせメール、配送遅延検知メール、免許証期限・車検満了日の通知メールなどの各種アラート通知や、承認プロセスなどのワークフローを簡単に設定可能。

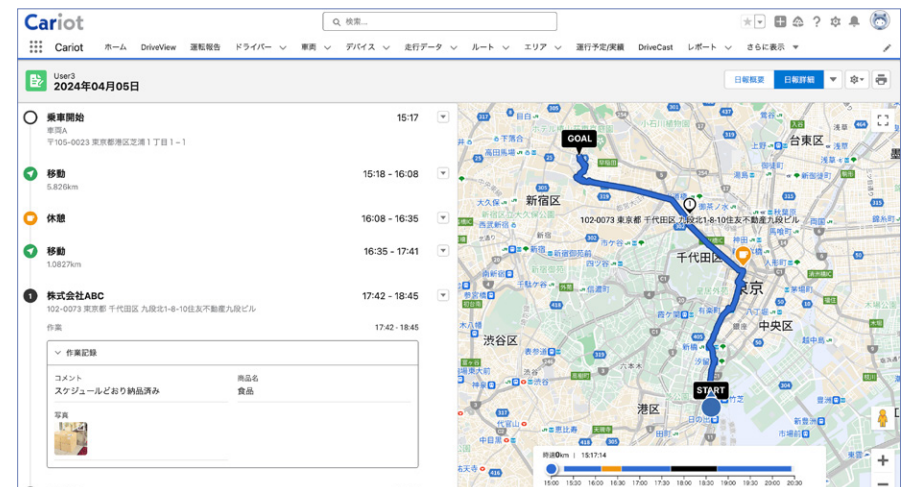
運転日報をはじめとする紙の提出・申請をなくし、現場運用を効率化、企業ガバナンスの向上が図れます。

例えば、運転日報は「運転報告」機能で自動作成ができます。安全運転管理者に求められる運転日報の項目に加え、業務で必要な活動の詳細データをデジタルで一元的に管理できます。

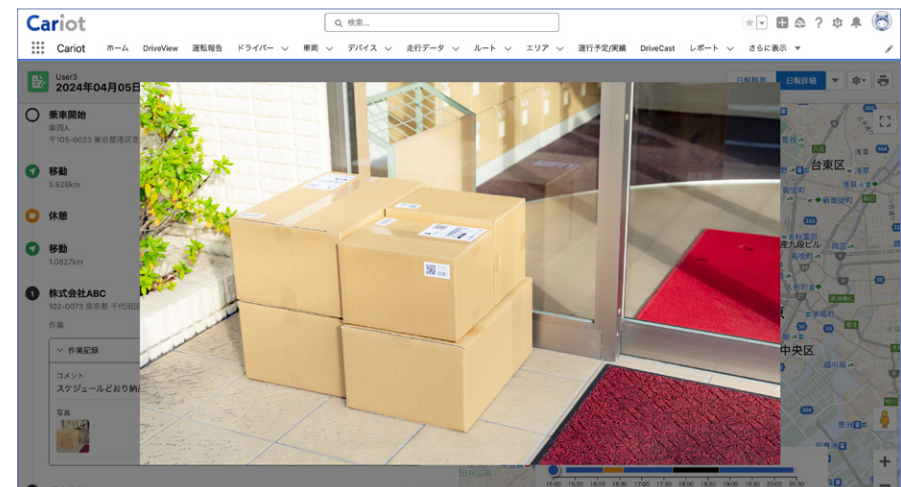
これにより従来の紙の運用における作成、回収、転記、集計といった運転日報に関連する作業負担を大幅軽減できます。

給油のレシートや納品・置き配の画像をアップロードして、報告の手間をなくすことも可能です。

管理者、ドライバー共に、本来の業務に集中できる環境を整えます。



「運転報告(運転日報)」の例



納品・置き配などの画像アップロードも可能

導入事例

1



「速さ」と「正確さ」、サービス提価値の最大化に成功した事例

株式会社由加屋様

赤帽は全国180カ所の営業拠点の強みを活かし、法人向けに全国配送のコーディネートを行っています。岡山県は赤帽岡山県軽自動車運送協同組合が拠点となり、その加盟団体・個人事業主のひとつが株式会社由加屋です。

お客様からの依頼は基本的に突発的なものがほとんどです。「いますぐに来ることはできますか?」、「いつ来られますか?」という催促の嵐です。早く届けられるならば、送料が高くなっても構わないという方もいらっしゃいます。さまざまな集荷の依頼を30名程のドライバーで切り盛りしてきました。しかし、一人ひとりのドライバーが、今どこで何をしているのか、その確認手段は各々への電話だけでした。そのため、最も早く向かえるドライバーを見つけるまでに時間がかかり、お客様をお待たせしてしまうこともありました。

Cariotを導入してからは、車両の現在位置がわかるようになり、配車担当からドライバーに電話をかける頻度は半分以下になりました。また、ドライバーが電話を取る回数も必要なものだけになり、効果をすぐに実感できたことには驚きました。

導入したGPSロガータイプはデバイスをシガーソケットに差すだけなので、年配のドライバーも難なく設定できています。

配車担当は3人ですが、事務所から離れて別の建物で会議に出席することもあります。これまでは会議中にドライバーの電話を受けることができませんでした。しかしCariotを使うようになってからは、車両の位置情報をパソコンやスマートフォン上でも確認でき、すぐに対応ができるようになりました。深夜の配送に関する情報も、確認したいときにチェックできます。忙しいときには3人がかりでドライバーに電話をかけていましたが、改善されたこの状況は配車係としては革新的です。

Cariotの機能の中で驚いたものは、お客様にURLを送れば荷物を預けた車両の状況が把握できる機能です。以前はお客様から問い合わせがあれば、都度ドライバーに電話をかけていましたが、今はその必要はありません。ドライバーも、走行中の着信の対応で焦ることがないので、安全運転の意識も自然と高まりました。



導入事例

2



現場の状況の「見える化」が多くの付加価値をもたらした事例

嘉屋興業株式会社様

嘉屋興業株式会社は北海道恵庭市に本社を構える一般廃棄物・産業廃棄物処理業者です。家庭ごみ、事業系ごみの収集運搬から各種管清掃などのさまざまな業務を行っています。そうした多岐にわたる現場に駆け付ける車両の位置情報を管理するためにCariotの導入を決定しました。

Cariotを導入したことで、ドライバーは他の車両の状況も一目でわかるようになりました。その結果、自分の担当作業が終わって余裕があれば、自ら他のドライバーに「手伝おうか?」と連絡をするなど、ドライバー同士が自発的にコミュニケーションを取るようになり、作業効率が上がると共に、指示を受けなくても協力をする体制が自然と生まれています。

Cariotに、使い始めた頃にはなかった停車時間を把握する機能が追加されたことで、マップを見ながら通常よりも停車時間が長ければ状況や安否確認をしています。通常より作業が大変だということがわかれば、空いているドライバーを応援に向かわせることができます。Cariotのおかげで現場の臨場感がより伝わってくるようになりました。



Cariotの製品サイトでは、実際にご利用いただいている企業の導入事例を公開しています。こちらもぜひ、ご覧ください

Cariot導入事例ページ
<https://www.cariot.jp/case/>





車両に関する属人業務「ゼロ」を目指す

リアルタイム情報活用術

お問い合わせ先

株式会社フレクト Cariot事業部

Web: <https://www.cariot.jp/>

Mail: cariot_marketing@flect.co.jp

TEL: 03-3561-9610 (平日10:00 ~ 18:00)

Cariot 



cariot.jp

※本資料の情報、及び画像は、作成時点のものです。詳しくは最新の情報をご確認ください。
※各社事例の情報は、ヒアリング時のものになります。また、数値評価は企業努力も含まれます。

